

JOSKAS ニュースレター

発行：一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS)

URL:<http://www.joskas.jp/>

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング(株式会社コングレ内) TEL:03-3510-3746 FAX:03-3510-3748

第12回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、 JOSKAS セミナー開催にあたって

第12回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会会長 石橋 恭之
弘前大学大学院医学研究科 整形外科 教授



新型コロナウイルス感染の収束も未だ見通せない状況ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。すでにJOSKAS letterでご報告したように、今回の学会は第46回JOSSMとの合同学会で、会期は2020年12月17～19日、神戸国際会議場で開催いたします。開催方法に関しましては、理事会や学会運営事務局などとも慎重に協議を進めて参りましたが、ハイブリッド開催にすることに決定いたしました。もちろん新型コロナの第3波にも備え、事前に全ての発表者から講演データを頂き、いつでもオンライン学会に移行出来るよう準備をしております。現在、神戸国際会議場の人数制限も解除されていることから、学会場での発表をメインに行う予定です。

今回の学会テーマは、『2020 その先へ-調和と発展-』です。“2020 その先へ”は、東京オリンピックを意識したものでしたが、その先を見据えてスポーツ医学を議論していこうという意味です。“調和と発展”は、両学会が共に歩み寄り発展的な変化を遂げていこうという決意を表しています。今や両学会共に、医師・理学療法士・トレーナーなどからなる大きな学術団体となりました。次世代を担う若い人達のためにも、皆様と活発な討論を行い、今後の学会のあり方も考えていきたいと思っております。学会国際化を目指して企画した海外演者のご講演は、残念ながらすべて海外からのオンライン発表に変更いたしました。しかし、特別講演でお招きしている貴乃花光司様、桑田真澄様は予定通り現地に来ていただけるとのことですので、楽しみにして下さい。

全員懇親会は学会初日の夕方に開催いたします。会場でのアルコール提供はできませんが、男子新体

操の名門・青森山田高校と青森大学出身者で構成されている「BLUE TOKYO」が、津軽三味線とコラボしたパフォーマンスを披露する予定です。恒例のJOSKAS OYIA 賞などの各種表彰も行います。また、懇親会の前には、10月にスポーツ庁長官に就任されたばかりの室伏広治先生に、『スポーツが変わる。未来を創る』というテーマで、今後のスポーツの未来についても語っていただく予定です。

学会終了後には例年同様JOSKAS セミナーを開催いたします。本セミナーでは膝関節鏡、肩関節鏡、足関節鏡、そして骨切りコースを行います。日曜の実技は事前予約者しか参加できませんが、学会参加者は土曜の講義は無料で聴講出来るようにいたします。学会ではなかなか聞けない手術手技の疑問を、第一線で活躍する講師の先生方にお聞き下さい。また、アスリートを指導するPTや医師を対象として、JOSSM セミナーも新たに企画しました。このセミナーは土曜だけの開催となります。直接実技指導を行う都合上、人数制限がありますので、希望者はお早めにご登録頂ければと思います。

師走の大変忙しい時期に加え、新型コロナの影響で開催自体も予断を許さない状況であります。しかし、企業展示場でのスタンプラリーなど、現地開催ならではの楽しい企画も準備したいと思っております。十分な感染症対策を行って学会運営をいたしますので、多くの皆様方にご参加いただき、活発なご討論を心よりお願い申し上げます。

新理事挨拶



早稲田大学スポーツ科学学術院
熊井 司

このたび、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会の理事という大任を拝命し、大変光栄に存じております。多くの会員を擁する非常に勢いのある学会の中での責任の重大さを痛感しております。私は足の外科学、スポーツ整形外科学および低侵襲治療学に関する臨床研究と、運動器機能解剖学・形態学や足のバイオメカニクスに関する基礎研究を行っております。本学会では、これまで広報委員会委員長として長年にわたり情報発信を担う配布用小冊子「運動器疾患とスポーツ外傷・障害」シリーズの刊行や、学会HPのデザインや構成など管理業務に従事して参りましたが、この就任にあたり新たに学会誌編集委員会担当理事としても務めさせていただくことになりました。浅学非才の身ではございますが、本学会の更なる発展に貢献できるよう尽力いたす所存です。会員の皆様にはご指導ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



北海道大学病院 スポーツ医学診療センター
近藤 英司

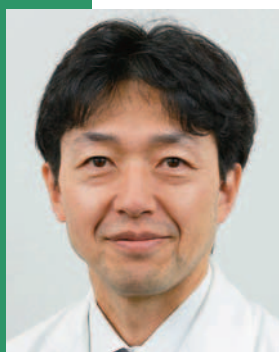
このたび、伝統ある日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）の理事に就任させて頂くことになりました北海道大学病院スポーツ医学診療センターの近藤でございます。私はこれまでJOSKASならびに前身の日本膝関節学会および日本関節鏡学会を通じて、会員の先生方に膝関節外科医として育てて頂きました。現在、本学会は大きな転換期を迎えておりますが、多くの会員の先生方にとりまして魅力ある組織になるよう微力ながら本学会の発展に尽力する所存でございます。会員の皆様にはご指導ご支援を賜りますようどうぞ宜しくお願い申し上げます。



公立大学法人福島県立医科大学 医学部 整形外科
紺野 慎一

この度伝統のある日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）の理事を拝命し誠に光栄に存じます。

私は臨床において「脊椎外科」「慢性疼痛」を専門とし、基礎においては「慢性疼痛のメカニズム」の実験的研究を行っています。「慢性疼痛」は生活習慣病を含む人間の健康に大きな影響を及ぼしています。JOSKASのさらなる発展に寄与できるよう努めて参りますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



慶應義塾大学 整形外科
二木 康夫

今回、新たに日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）の理事に就任しました慶應義塾大学整形外科の二木でございます。私はこれまで膝関節外科を中心に臨床・研究に携わってまいりました。すでに社会保険委員会の担当理事の大役を拝命しており、新規術式の診療報酬獲得に精進したいと思います。直近ではWith コロナ時代への対応、そして日本膝学会の独立の問題など課題は多数ありますが、本学会の発展に寄与できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



1) Kinematic Alignment (KA) 法とは？

TKA の術後のアライメントの指標として下肢機能軸に垂直にインプラントを設置する、いわゆる mechanical alignment (MA) 法が推奨されてきた。しかし近年、生まれ持った下肢のアライメントは軽度内反であり (constitutional varus)、アライメントを neutral まで矯正する MA 法は過矯正ではないかということが言われるようになった。KA 法は、生まれ持ったアライメントを再現する方法であり、Howell らにより提唱された。関節軟骨の摩擦がない膝に TKA を行うと仮定すると分かりやすいが、インプラントの厚み分骨および関節軟骨を切除してインプラントを設置するというものであり、MA 法のように機能軸を指標とはしない (図)。KA 法の理論的なメリットとしては、i) 生まれ持ったアライメント、ii) 生まれ持った靭帯バランス、そして iii) 生まれ持った関節面の傾き、を獲得するということになる。

2) KA 法の臨床成績

KA と MA を比較した臨床研究では KA が優れていたという報告もあるが、差がなかったという報告もある (表)。論文中に全てのデータが記載されている訳ではないが、差がないとした論文では、術後に 10 度以上の内反変形が残存した症例も含まれている (表)。

3) 理論的なメリットについて

i) 生まれ持ったアライメントを獲得可能か？

軽度の変形であれば、Howell らが提唱しているように、関節軟骨の摩擦分 (約 2 mm) を考慮して骨切りを行えば、病前のアライメントをある程度再現可能かもしれないが、骨の欠損を生じてくるような変形であれば、病前のアライメントの推定は困難であり、2 mm の矯正では内反変形が残存しやすい。最近は多少のアライメント異常があってもインプラントの再置換のリスクはあまり上がら

いとされているが、長期の耐用性には不安が残る。そこで出てきた概念が Restricted Kinematic Alignment 法であり、脛骨の内反を 3 度までにとどめるなど、制限を決めて手術を行っており、良い成績を納めている (表)。従って、生まれ持ったアライメントを全ての症例で得るということは難しく、平均的な constitutional varus (2~3 度内反) を目標とする、というのも KA 法のひとつの形であろう。

ii) 生まれ持った靭帯バランスを獲得する

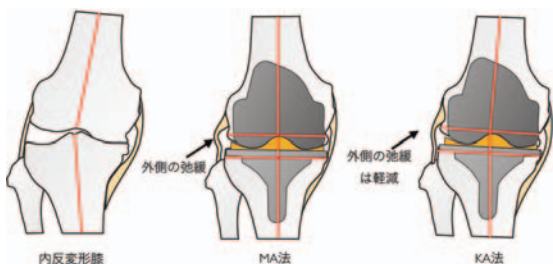
内反変形膝では内側支持機構の拘縮は少ないが、外側支持機構は変形の進行とともに弛緩していくことが知られている。従って MA 法に比べて 3 度程度 undercorrection にしても外側の弛緩性は残存することになる (図)。よってアライメントの調整だけでは、生まれ持った靭帯の緊張度も併せ持つことは不可能で、軽度の内反アライメント + 軽度の外側弛緩性という状態になる。軽度の内反アライメントに外側の弛緩性が併存すると外側のリフトオフの危険性がある。

iii) 生まれ持った関節面傾斜を獲得する

3 度程度の関節傾斜があった方が歩行時には関節面が地面と並行になるという報告もあり、耐久性の面でも有利に働く可能性はある。KA 法では大腿骨も軽度の外反設置となり、これも屈曲時の PF 関節の接触形態としては有利に働くことも期待される。しかしいずれもまだ臨床における優位性は証明されていない。

4) 今後の展望

TKA の成績を更に向上させるためには、画一的な手術目標では難しいと思われ、KA 法は画一的な手術方法に対して一石を投じた意義のあるコンセプトである。今後は靭帯の弛緩性も考慮にいった personalized TKA の術式の確立も求められている。



図

表

術前変形	術後 alignment	結果	筆頭著者	雑誌	年
Conventional KA					
1.5° (-11.4°~9.3°)	-0.1°±2.8 (-7.7°~8.5°)	KA で WOMAC、OKS、KSS、屈曲角度が良い	Dossett HG	BJJ	2014
2°±5 ±10°を対象	-1°±3 (-8°~15°)	KA で WOMAC、KSS が良い	Calliess T	KSSTA	2017
-1.6°±6 (-19°~8°)	-0.4°±3 (-6°~11°)	KA = MA	Waterson HB	BJJ	2016
		KA = MA	Young SW	CORR	2017
Restricted KA					
2.9°±3.6 (-1.8°~13.9°)	0°±3.3 ±3°に制限	KA で KOOS が良い	Blakeney W	KSSTA	2017
外反変形は除外	1.8°±1.5 (-1.5°~6.0°) 脛骨は 3 度内反	KA で 屈曲角度、function score の改善が良い	Matsumoto T	BJJ	2017

2020年度 JOSKAS 学会賞

～受賞者のことば～



関節鏡賞

肩甲下筋腱の断裂範囲を反映する筋力測定の検討 (第45巻3号 pp.591-595)

大阪大学大学院 医学系研究科 器官制御外科学 (整形外科) 佐原 亘

この度は大変名誉のある素晴らしい賞を受賞させて頂き誠にありがとうございます。選考にご尽力頂いた先生方に深謝致します。この研究は、以前勤務していた旧大阪厚生年金病院 (今の JCHO 大阪病院) で米田稔先生、山田真一先生の指導のもと行っていた筋力測定を、転勤後も理学療法士の先生方の協力のもと継続してきた成果であります。この場をお借りしてご指導・ご協力頂いた全ての方々に厚く御礼申し上げます。私の研究結果が今後の臨床評価に役立つことを願っております。



膝賞

再前十字靭帯再建術における関節軟骨鏡視所見と初回骨孔位置の関連性 (第45巻3号 pp.649-654)

第二大阪警察病院 整形外科 武 靖浩

この度は素晴らしい賞を賜り、大変ありがたく思います。行岡病院でたくさんの再 ACL 再建術の症例を経験する中で、非解剖学的骨孔が関節軟骨の変性につながることを後ろ向き研究ながら示すことができた論文です。いつもご指導下さっている史野先生、中田先生、中川先生、前先生、そして選考委員の先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



スポーツ賞

膝前十字靭帯再建術後のジャンプ着地における衝撃緩衝係数と下肢関節運動の関係 (第45巻3号 pp.802-805)

総合病院回生病院 関節外科センター附属理学療法部 池野 祐太郎

この度、JOSKAS スポーツ賞を授与頂き誠にありがとうございます。当院では三次元動作解析装置を用いた動作分析を行い、臨床疑問を解決できるよう研究を重ねております。本論文は膝前十字靭帯再建術後患者様の動作分析により、ジャンプ着地動作の衝撃緩衝係数を求め、下肢関節屈曲運動量と相関があることを明らかにしたものです。本研究で学会賞を頂けたことは大変心強く、今後も日々研鑽していきたいと思っております。ご多忙中にもかかわらず、研究活動や臨床に快くご指導・ご協力して頂いた当院関節外科センタースタッフ、患者様、またご選考頂いた先生方に深く感謝致します。

2020年度 JOSKAS

Outstanding Young Investigator Award (OYIA)

～受賞者のことば～



北海道大学病院 整形外科 清水 智弘

この度は、大変名誉ある賞を受賞する機会を頂き、選考して頂きました JOSKAS 執行部の先生方に感謝申し上げます。岩崎教授にご紹介いただき、UCSF で Benjamin Ma 先生の下でバイオメカニクスと画像解析、スポーツ医学に関するイロハをご指導いただいた成果が実を結びました。留学前のバックグラウンドと異なり、苦労もありましたが、学術的な引出しを増やすことができました。今後も引き続き精進したいと思います。

東京医科歯科大学 整形外科 中川 裕介

この度は OYIA 賞という名誉ある賞をいただき大変光栄に思います。私は 2016 年から 2 年間米国ニューヨークにある Hospital for Special Surgery へ留学しました。本賞の対象業績は留学先での新しい人工半月板の羊を用いた in vivo での検討です。留学中公私ともに大変お世話になりました。聖路加国際病院整形外科の和田進先生、留学の機会を与えていただき、膝関節の臨床と研究をご指導くださいました。関矢一郎教授、古賀英之教授に深謝申し上げます。



神戸大学大学院 整形外科 亀長 智幸

この度は、名誉ある OYIA 賞を授与頂き誠に有難うございます。神戸大学並びに高槻病院で行ってきた研究が実を結び、このような伝統ある賞を頂けたことを光栄に存じます。御指導御鞭撻を賜りました黒田良祐教授、松本知之先生、平中崇文先生をはじめとする同門の先生方に深謝申し上げます。この受賞を励みとして、少しでも整形外科の発展に寄与できるよう今後も精進して参りたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

2020年度 JOSKAS OYIA ノミネートされた先生方

▼清水 智弘 (北海道大学病院 整形外科)

- Abnormal Biomechanics at 6 Months Are Associated With Cartilage Degeneration at 3 Years After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. : Arthroscopy. 2019 Feb ; 35 (2) : 511-520.
- Increases in Joint Laxity After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Are Associated With Sagittal Biomechanical Asymmetry. : Arthroscopy. 2019 Jul ; 35 (7) : 2072-2079.
- Structural Changes over a Short Period Are Associated with Functional Assessments in Rheumatoid Arthritis. : Journal of Rheumatology. 2019 Jul ; 46 (7) : 676-684.
- Potential association with early changes in serum calcium level after starting or switching to denosumab combined with eldelcalcitol. : Journal of Bone and Mineral Metabolism. 2019 ; 37 : 351-357.

▼中川 裕介 (東京医科歯科大学大学院 軟骨再生学)

- Duration of postoperative immobilization affects MMP activity at the healing graft-bone interface : Evaluation in a mouse ACL reconstruction model. : Journal of Orthopaedic Research. 2019 Feb ; 37 (2) : 325-334.
- Long-term Evaluation of Meniscal Tissue Formation in 3-dimensional-Printed Scaffolds With Sequential Release of Connective Tissue Growth Factor and TGF- β 3 in an Ovine Model. : American Journal of Sports Medicine. 2019 ; 47 (11) : 2596-2607.
- Transplantation of Aggregates of Autologous Synovial Mesenchymal Stem Cells for Treatment of Cartilage Defects in the Femoral Condyle and the Femoral Groove in Microminipigs. : American Journal of Sports Medicine. 2019 ; 47 (10) : 2338-2347.

▼亀長 智幸 (神戸大学 整形外科)

- Adequate Positioning of the Tibial Component Is Key to Avoiding Bearing Impingement in Oxford Unicompartmental Knee Arthroplasty. : J Arthroplasty. 2019 Nov ; 34 (11) : 2606-2613.
- Valgus Subsidence of the Tibial Component Caused by Tibial Component Malpositioning in Cementless Oxford Mobile-Bearing Unicompartmental Knee Arthroplasty. : J Arthroplasty. 2019 Dec ; 34 (12) : 3054-3060.
- Medial knee stability at flexion increases tibial internal rotation and knee flexion angle after posterior-stabilized total knee arthroplasty. : Clin Biomech (Bristol, Avon). 2019 Aug ; 68 : 16-22.
- Rotational position of the tibial component can decrease bony coverage of the tibial component in Oxford mobile-bearing unicompartmental knee arthroplasty. : The Knee. 2019 Mar ; 26 (2) : 459-465.
- Accuracy of cup orientation and learning curve of the accelerometer-based portable navigation system for total hip arthroplasty in the supine position. : J Orthop Surg (Hong Kong). 2019 May-Aug ; 27 (2) : 2309499019848871

●橋本 章吾 (群馬大学大学院医学系研究科 整形外科)

- Extracorporeal Shockwave Therapy Accelerates the Healing of a Meniscal Tear in the Avascular Region in a Rat Model. : The American Journal of Sports Medicine. 2019 Sep 10 ; 47 (12) : 2937-2944.
- Younger patients with high varus malalignment of the contralateral knee may be candidates for simultaneous bilateral total knee arthroplasty. : Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy 2019 ; 27 : 2173-2180.

●川口 航平 (東京大学 スポーツ先端科学研究拠点)

- Intraoperative Tibial Anteroposterior Axis Could Not Be Replicated After Tibial Osteotomy in Total Knee Arthroplasty. : J Arthroplasty. 2019 Oct ; 34 (10) : 2371-2375.
- Intraoperative mobile-bearing movement in Oxford unicompartmental knee arthroplasty. : Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2017 ; 27 : 2211-2217
- Meniscal bearing dislocation while rolling over in sleep following Oxford medial unicompartmental knee arthroplasty. : The Knee. 2019 Jan ; 26 (1) : 267-272.

●岡崎 勇樹 (岡山大学病院 整形外科科学教室)

- Trans tibial pullout repair of medial meniscus posterior root tear restores physiological rotation of the tibia in the knee-flexed position. : Orthop Traumatol Surg Res. 2019 Feb ; 105 (1) : 113-117.
- Description of a surgical technique of medial meniscus root repair : a fixation technique with two simple stitches under an expected initial tension. : Eur J Orthop Surg Traumatol. 2019 ; 29 : 705-709.
- Medial meniscus posterior root repair decreases posteromedial extrusion of the medial meniscus during knee flexion. : The Knee. 2020 Jan ; 27 (1) : 132-139.

●岡崎 良紀 (岡山大学病院 整形外科科学教室)

- Meniscal repair concurrent with anterior cruciate ligament reconstruction restores posterior shift of the medial meniscus in the knee-flexed position : Knee Surgery, Sports Traumatology Arthroscopy. 2019 ; 27 : 361-368.
- A novel suture technique to reduce the meniscus extrusion in the pullout repair for medial meniscus posterior root tears. : European Journal of Orthopaedic Surgery and Traumatology. 2019 ; 29 : 1805-1809.

●中川 量介 (国立国際医療研究センター 国府台病院 整形外科)

- Efficacy of foot orthoses as nonoperative treatment for hallux valgus : A 2-year follow-up study. : Journal of orthopaedic science. 2019 May ; 24 (3) : 526-531.
- Single vs. repeated matrix metalloproteinase-13 knockdown with intra-artic-

ular short interfering RNA administration in a murine osteoarthritis model. : Connective tissue research. 2019 ; 60 (4) : 335-343.

●西谷 江平 (京都大学大学院医学研究科 リウマチ性疾患先進医療学講座)

- A greater reduction in the distal femoral anterior condyle improves flexion after total knee arthroplasty in patients with osteoarthritis. : The Knee. 2019 Dec ; 26 (6) : 1364-1371.
- The minimum clinically important difference for the Japanese version of the new Knee Society Score (2011KSS) after total knee arthroplasty. : J Orthop Sci. 2019 Nov ; 24 (6) : 1053-1057.
- Valgus position of the femoral component causes abnormal kinematics in the presence of medial looseness in total knee arthroplasty : a computer simulation model of TKA for valgus knee osteoarthritis. : Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2019 ; 27 : 2051-2060.

●牛尾 哲郎 (九州大学 整形外科)

- Medial soft tissue contracture does not always exist in varus osteoarthritis knees in total knee arthroplasty. : Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy. 2019 ; 27 : 1642-1650.
- Degenerative changes in cartilage likely occur in the medial compartment after anterior cruciate ligament reconstruction. : Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy. 2019 ; 27 : 3567-3574.

●入内島 崇紀 (医療法人高徳会 上牧温泉病院 整形外科)

- Femoral tunnel length in anatomical single-bundle ACL reconstruction is correlated with height, weight, and knee bony morphology. : Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2019 ; 27 : 93-99.
- Evaluation of age-related differences in anterior cruciate ligament size. : Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2019 ; 27 : 223-229.
- The Blumensaat's line morphology influences to the femoral tunnel position in anatomical ACL reconstruction. : Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2019 ; 27 : 3638-3643.
- Bicruciate Substituting Total Knee Arthroplasty Improves Stair Climbing Ability When Compared with Cruciate-Retain or Posterior Stabilizing Total Knee Arthroplasty. : Indian J Ortho. 2019 ; 53 : 641-645.

●花田 充 (浜松医科大学 整形外科)

- The effect of extracorporeal shock wave therapy for the treatment of plantar fasciitis in regard to middle-aged patients' activity level and pain localization. : hock Waves. 2019 ; 29 : 321-326.
- Investigation of the control of rotational alignment in the tibial component during total knee arthroplasty. : European Journal of Orthopaedic Surgery and Traumatology. 2019 ; 29 : 1313-1317.
- Intra-wound vancomycin powder increases post-operative wound complications and does not decrease periprosthetic joint infection in primary total and unicompartmental knee arthroplasties. : Journal cover Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy. 2019 ; 27 : 2322-2327.
- Muscle recovery at 1 year after the anterior cruciate ligament reconstruction surgery is associated with preoperative and early postoperative muscular strength of the knee extension. : European Journal of Orthopaedic Surgery and Traumatology. 2019 ; 27 : 1759-1764.

●武長 徹也 (名古屋市立大学大学院医学研究科 整形外科学)

- Preoperative sonographic measurement can accurately predict quadrupled hamstring tendon graft diameter for ACL reconstruction : Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2019 Mar ; 27 (3) : 797-804.
- Relationship between bilateral humeral retroversion angle and starting baseball age in skeletally mature baseball players -existence of watershed age-. : J Shoulder Elbow Surg. 2019 May ; 28 (5) : 847-853.
- Superior clavicle drilling points and fluoroscopic inclination for anatomic coracoclavicular ligament reconstruction : a cadaveric study. : Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2019 Dec ; 27 (12) : 3813-3820.

●片倉 麻衣 (東京医科歯科大学大学院 運動器外科学分野)

- Biomechanical Effects of Additional Anterolateral Structure Reconstruction With Different Femoral Attachment Sites on Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. : American journal of sports medicine. 2019 ; 47 (14) : 3373-3380.
- Effect of meniscus repair on pivot-shift during anterior cruciate ligament reconstruction : Objective evaluation using triaxial accelerometer. : The Knee. 2019 Jan ; 26 (1) : 124-131.

●片桐 洋樹 (東京医科歯科大学大学院 運動器外科学分野)

- Reduction of BMP6-induced bone formation by calcium phosphate in wild-type compared with nude mice. : J Tissue Eng Regen Med. 2019 May ; 13 (5) : 846-856.
- The effect of a longitudinal tear of the medial meniscus on medial meniscal extrusion in anterior cruciate ligament injury patients. : The Knee. 2019 Dec ; 26 (6) : 1292-1298.

●中村 智祐 (東京医科歯科大学大学院 運動器外科学分野)

- Arthroscopic centralization restores residual knee laxity in ACL-reconstructed knee with a lateral meniscus defect. : Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2019 ; 27 : 3699-3704.
- Comparison of three approaches for femoral tunnel during double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction : a case controlled study. : J Orthop Sci. 2019 Jan ; 24 (1) : 147-152.

JOSKAS 誌 今後の投稿・発行予定について

新型コロナウイルスの影響により、学術集会が12月へ延期になったため、次号学会誌への投稿・発行スケジュールを下記のように変更いたします。正式なスケジュールにつきましては、学術集会後に改めてご案内いたします。

〈学会発表論文〉

投稿締切：2021年1月20日(水)

発行予定：JOSKAS 46巻1号…2021年3月31日(水)
JOSKAS 46巻2号…2021年5月15日(土)

〈原著論文〉

投稿締切：2021年2月20日(土)

発行予定：JOSKAS 46巻3号…2021年10月

会告

第13回(2021年)JOSKAS

会期：2021年6月17日(木)～19日(土)

会場：札幌コンベンションセンター

会長：出家 正隆(愛知医科大学 整形外科学講座)

URL：<http://www.congre.co.jp/joskas-jossm2021/index.html>

〈合同開催〉第47回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会

会長：稲垣 克記(昭和大学医学部 整形外科学講座)

第14回(2022年)JOSKAS

会期：2022年6月16日(木)～18日(土)

会場：札幌コンベンションセンター

会長：遠山 晴一(北海道大学大学院 保健科学研究所)

〈合同開催〉第48回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会

会長：岩崎 倫政(北海道大学大学院 整形外科学教室)

編集後記

松江赤十字病院 整形外科 熊橋 伸之

JOSKAS ニュースレター第17号をお届けします。本号では第12回 JOSKAS 会長の石橋恭之先生のご挨拶、新理事になられた4人の先生方のご挨拶を掲載させていただきました。また Something New では、松田先生に TKA の新しいコンセプトである Kinematic Alignment 法について、3つの JOSKAS 学会賞(膝、関節鏡、スポーツ)と3人の OYIA 賞の報告もあり、盛りだくさんの充実した内容となりました。

いよいよ12月に、第12回 JOSKAS が web 型と現地での対面型のハイブリッドで開催される予定です。今年は新型コロナウイルス

感染拡大防止のために、多くの学会が中止または通例にない web 型開催となりました。web 型開催では3密を防ぐことができる反面、学会場での熱気や臨場感は対面型でしか伝わらないことを痛感させられました。今後の学会運営においては、感染対策をしながら学会内容の充実を図るための試行錯誤が続きそうです。また今回は初の日本整形外科学スポーツ医学会学術集会との合同開催となり、今後の学会の在り方も問われる学会となりそうです。感染発生状況も予断を許さない状況ではありますが、どのような形であれ無事に本学会が開催できることを願うと共に、今後の JOSKAS の発展を切に祈っております。

